

TOSHIRO HATA PRESENTS

波多利朗の

Funky Corner

文●波多利朗 text by Hata Toshiro
 (URL) <http://www.sky-sea.co.jp/~catty/>
 (E-Mail) catty@mxp.mesh.ne.jp

SHARP PC3000

手回し計算機のはなし

今回の前フリは、手回し計算機である。筆者の趣味のひとつに、手回し計算機の収集がある。趣味の世界広しといえども、手回し計算機を収集するような変人はそうはいないと密かに自負しているのだが、しかし世の中案外広いから結構同じような趣味を持つ廃人も多いかもしれんな。それは置いて、手回し計算機とは停電時でも使える便利なシロモノで、レバー操作で数値を設定し、横に付いたハンドルを回して計算を実行するという、純メカニカル式の人力駆動装置である。そんなもん、今時手に入るのかと思うかもしれないがこれが結構入手可能なのだな。近所の骨董屋で見付けることもあるし、フリーマーケットの会場にゴロンと置かれていることもある。でかくて重いものであるにもかかわらず、筆者などはちょっと変わった形の見かけるとすぐに購入してしまう。今回はそんなコレクションの中から、下記2製品をご紹介します。

Original-Odhner計算機 (Model 229 Ser.8414)

1997年7月に、東京は秋葉原にあるジャンクショップ「ニューサクラヤ」にて購入した、ナント！新品デッドストックのメカニカル計算機(001)。パソコンのメッカ秋葉原で手回し計算機を、しかもデッドで購入するというのは、なかなかカオスなシチュエーションだ。正確な製造年月は不明であるが、おそらく60年代前半と思われる。元箱取り説付きで、錆びないように油紙でくるんで保管

されていたため程度は極上。どうやら、どこかの倉庫に眠っていたものを放出したもののようだ。ちなみに、名称の「Odhner (オドナー)」であるが、このタイプの計算機を考案したロシア在住のスウェーデン人W.T.オドナーの名前から取っている。オドナーがこの計算機を考案したのは、1875年頃だそう。なお、オドナー式計算機は、ドイツではブルンスヴィガ、アメリカではマーチャントというブランド名称で販売されたそうである。

仕様としては値数部10桁、表示部13桁の一般的なタイプ。スウェーデン製で、チェルベルジ株式会社という明治35年創業の会社が日本に輸入した。スウェーデン製ということもあり、本体にはスウェーデン鋼が使用されている。保存状態が極めて良好なので、現在でもハンドルが軽快に回る。ノスタルジックな雰囲気を楽しむことと、運動不足を補うため、筆者は今でもちょっとした計算にこの計算機を使うことがある。購入した製品には、本体に被せる防塵カバーも付属しており、手回し計算機が高価で



Original-Odhner計算機
 Original-Odhner計算機の外観。新品・元箱付き・デッドストックという激レア物

大切にされていた時代を偲ぶことができる。

フェリックスM型計算機 (Model BPH-3 Ser.P152289)

これは珍品。新宿にあるロシアカメラ専門店「ダックビル」にて、今から1年くらい前に購入した旧ソ連製の手回し計算機である (002)。

仕様は置数部9桁、表示部13桁と若干コンパクト。計算機の表面に刻印されたキリル文字が特徴だ。本体はなんと寝ぼけた水色に塗られており、いかにも共産圏の製品っぽくて味わい深い。製造年代は不明。購入した時の話しだと、ダックビルの店長さんが5〜6台まとめて現地で買いつけて、輸送してもらったそうだ。

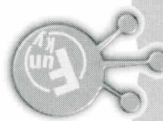
しかし、ロシア側での梱包が極めていい加減で、新聞紙で軽く包んだものをダンボールにまとめて放りこんでいたため、日本に到着するまでに振動でほとんどが潰れてしまい使い物にならなくなっていたとか。かろうじてこの1台は無事だったとのことである。聞くところによれば、物持ちが異様に良いロシアでは最近まで手回し計算機が現役で使用されていたそうである。しかし、さすがに最近では電卓に取って代われ、外貨獲得のため海外、主にアメリカの骨董品バイヤーに販売しているそうだ。ロシアカメラ店で旧ソ連製手回し計算機を購入するとは、なかなかディープな世界だな……。

さて、計算機と言えば、電卓。電卓といえばSHARPということで、かなりこじつけが激しくなっちゃうのだが、今回はザウルスシリーズで有名なSHARPが製造した「謎ば〜機」、PC3000 (1991年) をご紹介しよう。語弊が無いよう書いておくが、別にSHARPは最初から、このマシンを「謎のパームトップ機」すなわち「謎ば〜機」として制作したのでは無い (考えてみれば当たり前だな！

そんなメーカーなんてあるわけない……。おそらく本製品、海外ではそこそこメジャーだったのだらうと思われるが、いかんせん日本語化が一切されておらず、日本でも正式に発売された形跡が無いため、残念ながら国内での知名度はかなり低い。そういった観点から、本機を「謎ば〜機」と呼んでいる次第である。もっともこのPC3000、国内でも使用していたという方も結構いらっしゃるようで、「知る人ぞ知るマシン」といった趣もあるようだ (003)。

カナダから来たマシン

筆者はこのPC3000を、カナダはトロントに店を出すMARKETRON COMPUTERSというノート専門のパソコンショップで入手した。購入したのは1997年の初頭であったが、今回記事を書くにあたり、まだ健在かどうかを調査してみたところ、なんと、今だにPC3000を販売していたのには驚いた！ (2000年2月4日現在)。おそらく在庫が尽きたらハイそれまでよ、の世界だと思うが、それにしても9年も前のパームトップ機を購入することができるのはここぐらいなものであろう。因みに同社のホームページのURLと住所は、下記の通り。レアなDOSマシンで遊びたいと思う廃人さんたちは、さっそくゲットしてみよう！



Toronto Dominion Centre

66 Wellington Street West, Concourse Level Toronto, Ontario M5K 1H1 Canada
Tel: (416) 366-3168 Fax: (416) 366-0581
URL: <http://www.notebooksplus.com/>

002



フェリックスM型計算機

赤い星の国が製造した手回し計算機、フェリックスM型寝ぼけた水色の塗装が郷愁をそそる……

003



PC3000のパッケージ構成

PC3000のパッケージ構成。本体、マニュアル、専用のシリアル・パラレル専用ケーブルから構成されている

PC3000登場の経緯

PC3000の生い立ちはちょっと変わっている。本来PC3000は、以前本誌上にてご紹介したパームトップ・パソコンATARI Portfolioの後継機種として世に出ることになっていたものだ。ATARI Portfolioは、CPUに80C88を使用し128Kバイトの内蔵メモリを搭載したパームトップパソコンであり、そのオペレーティングシステムには、英国DIP社が開発したMS-DOS互換のOSであるDIP Operating System 2.11を採用していた。実は、このATARI Portfolioというマシン、ATARI社が自社で開発したものではなく、英国DIP社が開発したものをATARI社にOEM供給していたものなのである。

ところで、ATARI Portfolioは仕様上不便な部分や不具合を内在していた。そこでDIP社では、これらの不具合を修正したPortfolio 2を開発する。しかし、ATARI社ではなぜかこのPortfolio 2を次期製品として採用しなかった。その代わりに言うてはナンだが、SHARPがPortfolio 2のライセンスを買い取り、1991年PC3000として製品化したというわけである (004)。

デザインが全く別であるため、一見何のつながりも無いように思える両者であるが、使ってみると意外なところに類似点を見出すことができる。一例を上げるとすれば、ATARI PortfolioもSHARP PC3000も、ブート時にDIP社のクレジットが出力されるころであろう。また、両マシン共に電源スイッチといったものが無く、DOSのコマンドライン上でoffコマンドを入力することで電源が切断されるようになっている。……とこう書くと、「電源スイッチが無いのに、どうやって起動させるのかいな？」と悩んでしまい、夜も眠れなくなってしまった人が続出したので、若干の説明を加えるならば、こうなる。

PC3000には、電源スイッチは無い。一番最初に使うときは、バッテリーを挿入すると自動的に電源が入る。で、offコマンドで電源を切った後は、キー割り込みで再起動できるようになっており、何かのキーを押すことでシステムをウエイクアップさせることができる。電源を入れればなしにしておく、数分でレジューム状態に陥るが、この場合の起こし方も同様で、何かのキーを押せばよい。さらに、もっと厳密にいうと、PC3000には電源スイッチ(キー)はないのだが、電源OFFキーというものがある。キーボード上でFn+Escを押すことで、offコマンドを入力したのと同じ機能を行うことができる。

004

SHARP ELECTRONICS OF CANADA LTD.
335 BRITANNIA ROAD EAST
MISSISSAUGA, ONTARIO L4Z 1W9
CANADA

MADE IN HONG KONG

パッケージ本体に添付されているシールの写真
PC3000の外箱に添付されているシール。下記内容が記載されている。日本メーカーのパームトップがカナダで販売され、製造は香港製というワヤクチャ状態

以下に、PC3000とPortfolioのブート時のメッセージを示しておこう。

SHARP PC3000 ブート時のメッセージ

```
DIP 80C88A-BIOS Version 1.010
Copyright (c) DIP Reserch and Sharp Corp. 1991
All rights reserved
```

Atari Portfolio ブート時のメッセージ

```
DIP Operating System 2.11 v1.072
Copyright (c) DIP 1989
```

PC3000の概要

さて、PC3000とはどんなマシンであったかを実際に見てみよう。まず本体の大きさであるが、ME-386やPTV-30といった代表的なCGAベースの謎ば〜機とほとんど同じである。といってもME-386やPTV-30をご存知無い方もたくさんおられると思うので、もう少しメジャーな機種を引き合いに出せば、NECのモバイルギアの横幅を少し小さくした程度の大きさである。さすがにSHARPの製品だけあり、作りは非常に丁寧だ。ただし、外装は結構剥離しやすいので、衝撃には要注意だ (005, 006)。

ATARI Portfolioと比べて最も強化されたところが、カードスロットである。PC3000ではPCMCIA規格が採用されており、本体向かって右側がCard 1 (007)、左側がCard 2 (008) となっている。Card 1に挿入されたメモリデバイスはAドライブとして認識され、Card 2はBドライブとなる。カードスロットはマニュアル上ではPCMCIA 1.0 (Type-1) 専用となっているが、スロット形状を見るとType-2のカードも挿入可能な形状となっている。というわけで、思わずType-2のフラッシュメモリカードを挿入したくなっちゃうのであるが、さすがに挿入しただけで



SHARP PC3000本体



PC3000 (蓋を閉じたところ)



IC Card 1 スロットとパラレルポートコネクタ
パラレルコネクタは専用仕様となっている

IC Card 2 スロットとシリアルポートコネクタ
本体左側にある IC Card 2 スロットとシリアルポートコネクタは専用仕様となっている

カードスロットのロックスイッチ
PCMCIAカードのロックスイッチ。これをロックしないとカードは使用できない

液晶画面の右横にあるステータスインジケータ
液晶画面右横にあるステータスインジケータ。Card 1、Card 2、Caps Lock、Num Lock、Scrl Lockの、それぞれの状態を把握することができる



は認識はされない。ただし、専用のドライバを用いれば認識させることが可能だ。キーボードの手前には、PCMCIAカードのロックボタンがあり、カードの抜き差しを行う場合にはこのボタンのロックを解除する (009)。

PC3000の特徴といえば、大きく見やすい液晶画面であろう。さすが液晶のSHARPだけあって、このクラスのマシンとしては品質が高い。しかもこのマシン、液晶画面表示を白黒反転させることが可能なので、DOSベースのゲーム機として威力を発揮することができるのである。これはグッド!!!

液晶画面の横にはステータスインジケータが付いており、Card 1、Card 2、Caps Lock、Num Lock、Scrl Lockの、それぞれの状態を把握することができるのもオシャレだな (010)。

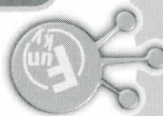
キーボードであるが、明確なクリック感とキーストロークを確保している。キートップの大きさも充分なので、タッチタイピングは容易な部類に属するであろう。この時代のパームトップ機には、キーを押し下げた時に引っかかるような感じを受ける製品も見受けられたが、PC3000の場合そのようなことは皆無である。キークリック音も出すことができるので、ミスタッチの防止にも役立つ。配列はQWERTYの77キー。XT互換キーボードを

採用していたPoqet PCと異なり、PC3000はAT互換キーボードを採用している (011)。

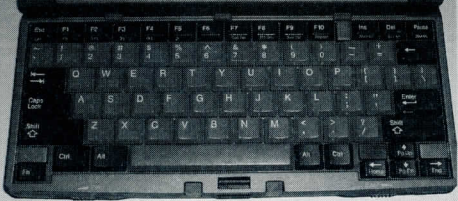
メインバッテリーはPortfolioと同様単三乾電池3本を使用する。電池を3本も使用するところなどは、さすがに時代を感じさせる。バッテリー格納部のフタはネジ止めになっており、出し入れは多少(死ぬほど)面倒くさい。サブ・バッテリーはCR-2016を使用し、本体裏側に搭載している (012)。省電力化といった点では今一つのように、筆者のマシンでは、パワーセーブモードで使用した場合、アルカリ電池の持続時間はだいたい15時間程度であった。ちょっと燃費の悪い、キャブ仕様の国産旧車といった感じだな。

I/Oポートはシリアル、パラレルを各1つずつ内蔵している。ただし、コネクタの形状は特殊なので、専用のケーブルを用いて使用することになる。この専用ケーブルは、本体に標準で添付されてくる (013)。

以下に、PC3000の仕様を示しておく。



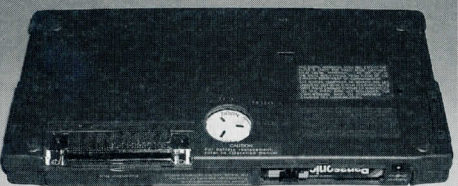
011



PC3000のキーボード

PC3000のキーボード。CPUは80C88であるが、キーボードはAT互換となっている

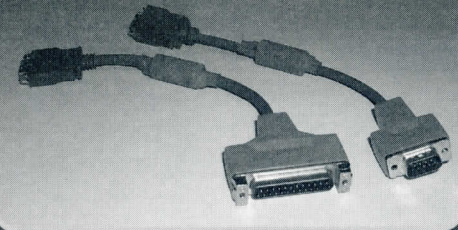
012



本体裏面

拡張バススロットコネクタとバックアップ電池、メイン電池の搭載状況

013



専用のシリアル・パラレルケーブルの形状

本体に標準で添付されてくるシリアルケーブル。左がパラレル、右がシリアルケーブル。ケーブルは日本AMP製

フラッシュメモリ導入計画

さて、お約束の日本語化を行う前に、まずメモリを拡張しておく必要がある。PC3000の場合、内蔵メモリは1Mバイトしか搭載されていないため、何らかのカードメモリを導入する必要がある。PC3000には基本的にType-1のカードしか使えないため、SRAMカードか何かを突っ込むのが一番手取り早いのであるが、SRAMカードは容量が少ないのと何より高価であるため、あまり使いたくない。できれば安価で大容量のフラッシュメモリカード（SunDisk）を導入したいのだが、そのためには認識させるためのドライバを導入する必要がある。幸い、SunDisk用のドライバソフトは下記ftpサイトにアップロードされている（014）。

<ftp://hawk.psychol.ucl.ac.uk/pub/sharp-pc3k>

使用するドライバ名称は、次の通り。

`sundrv.zip`

このファイルを解凍すると、

```
DIPSSDP SYS 6,130 92-11-04 18:34 DIPSSDP.SYS
```

というデバイスドライバが生成されるので、これをconfig.sys中に格納すれば良い。せっかくftpサイトに立ち寄ったのだから、この際他にも便利なソフトをここからダウンロードしておくことにしよう。今回はPC3000用の各種セットアップソフトを収集したsharpcon.zipをダウンロードしておく。

sharpcon.zipを解凍して得られる

```
PM EXE 4,604 92-07-06 14:04
PM.EXE
```

は、PC-3000のパワーセーブの設定を行う上で便利なツールだ。

以上ダウンロードしたdipssdp.sysとpm.exeは、PC 3000本体内蔵RAMであるDドライブへコピーしておく。おっと、PC3000のドライブ構成について説明しておくのを忘れていた。PC3000のドライブ構成は、以下のようになっている。

A : IC Card 1スロット

B : IC Card 2スロット

C : 内蔵ROM DISK (ROM約900Kバイト、RAM約2K

モデル名称	Personal Computer PC3000
メーカー	SHARP
CPU	80C88A 10MHz / 5MHz (動作速度を切り替え可能)
搭載メモリ容量	ROM 1Mバイト、RAM 1Mバイト
ディスプレイ	640×200 dot CGA LCD 【アクティブエリア: 173mm×66mm】
キーボード	QWERTY 77キー・キーボード
I/Oポート	シリアル×1 (COM1) 専用ケーブルを使用 パラレル×1 (LPT1) 専用ケーブルを使用
本体重量	480g (乾電池を含む)
バッテリー	メインバッテリー 単三乾電池3本 サブバッテリー リチウムボタン電池1個 (CR2016使用)
PCMCIA	PCMCIA 1.0 Type-1 2スロット実装
大きさ	222mm (W) ×112mm (D) ×25.4mm (H)
内蔵ソフトウェア	MS-DOS Ver 3.3 ROM Version、Laplank、PIM Software
ACアダプタ	別売り (CE-301V)

バイト程度)

D : 内蔵RAM DISK (約70Kバイト)

E : 内蔵RAM DISK (約360Kバイト)

先ほどのSunDisk ドライバをDドライブに格納した理由であるが、これはPC3000のブートシーケンスと関係する。PC3000では、まずCard 1に挿入されているデバイスをチェックし、ブート可能デバイスがあればCard 1に格納されているconfig.sysとautoexec.batの設定を使い起動する。Card 1にブートデバイスが無い場合、Card 2をチェックし、ブート可能ならばブートする。Card 2からもブート可能であることが、PC3000の特徴だ。カードドライブにブートデバイスが無い場合には、内蔵RAM DiskのDドライブをチェックする。Dドライブ上にconfig.sysとautoexec.batがあれば、それを参照し内蔵ROM DOSでブートする。最後に、Dドライブにもこれらのファイルが無い場合には、CドライブであるROMに格納されているconfig.sysとautoexec.batをDドライブにコピーし、それを参照してROM DOSでブートする。

従って、DドライブにSunDisk ドライバを格納しておけば、ブート時にドライブを認識してフラッシュメモリカードが使用できるようになるワケだ。後はフラッシュメモリカードを用意して、デバイスドライバをDドライブ上のconfig.sysに登録すればOK、と行きたいところだが、そう簡単に行かないのが謎ば~機の常である。筆者の実験では、同じSunDiskの製品でも、認識できるものとできないものが出てきてしまったのである。この辺は、やってみないとわからないという、謎ば~機特有の世界になってしまうな。Dドライブに格納するconfig.sys中でのSunDisk ドライバ部分の記述は、以下の通り。

```
device=d:\dipssdp.sys
```



IC Card 2とEPSON FLASH PACKER 10MB
IC Card 2スロットに挿入したEPSON FLASH PACKERカード

フラッシュメモリドライブが組み込まれると、下記メッセージが出力される。

```
SUNDISK SDP PCMCIA-ATA Device Driver
SHARP 3000 Version 1.01
Copyright (c) 1991, 1992 SUNDISK Corp.

SUNDISK Drive (s) = A: through B:
```

これを見てもわかるように、本ドライブは何のことは無い、SunDisk社が作成したものそのものなのである。かくして、このドライブを用いれば、A、B両ドライブ共にフラッシュメモリカードが使用できるようになり、メタシメデータシである。

ところで、フラッシュメモリカードを全く認識できない、もしくは認識しても読み込みはできるが書き込みができない、などといった症状が出た場合には、あきらめてしまう前にPCMCIAカードスロットに電源が供給されているかどうかを確認してみよう。この確認作業には、前述したフリーソフト、pm.exeを使用する。pm.exeを起動すると、下記のようなパワーマネジメント機能関連の設定項目が現れる。

- Serial port power is Off ← モデムを接続する場合にはOnに設定
- Parallel port power is Off
- Timer ticks are On ← KTX等の通信ソフトを使用する時にはOnに設定
- Audio amp is On
- Idle detection is On
- LCD power is On
- Card power is On ← Flash Packerを使用する場合にはOnに設定
- Expansion unit power is Off

このうち、Card powerがOffとなっていると、フラッシュメモリカードがうまく動作しないので、注意が必要である。また、Timer ticks areの項目がOffとなっていると、KTX等の通信ソフトを使用する場合や、DOSベースのゲームをプレイする時に不都合が生じるので、ここはOnに設定しておいたほうが無難だ。

以上が、PC3000でフラッシュメモリカードを使う方法であるが、それにしてもPCMCIAフラッシュメモリカードを導入するだけのことで、これだけの説明文を書かなくてはならないとは、つくづく難儀なマシンではあるな。



🌀 お約束の日本語化

PC3000の日本語化であるが、Poqet PC Classicの日本語化とほとんど同じと考えて良い。従って詳細を記載することは割愛するが、極端な話しPoqet PC Classicの日本語環境ファイルを、そのままコピーし、config.sysとautoexec.bat中に記載されているドライブ名を変更するだけで、問題なく動作させることができる。必要なファイル群を下記に示しておく。(但し日本語FEP関連ファイルを除く)。筆者の場合、これらのファイルを、Card 2に挿入したフラッシュメモリカード上 (Bドライブ上) に格納した。

システム関連ファイル

FONTMAN.EXE	フォントマネージャ
FONTMAN.INI	フォントマネージャの環境設定ファイル
YADC.EXE	CGA用ディスプレイマネージャ
YADC.INI	GA用ディスプレイマネージャの環境設定ファイル
PANSI.SYS	ANSIドライバ互換のドライバ
DBCSDUMY.SYS	DBCSに対応させるように見せかけるドライバ

フォント関連ファイル

LXHN16X.FNT	16ドット半角フォント
LXZN16X.FNT	16ドット全角フォント
LXHN11X.FNT	11ドット半角フォント
LXZN11X.FNT	11ドット全角フォント
LXHN08X.FNT	8ドット半角フォント
LXZN08X.FNT	8ドット全角フォント

上記のファイルの他に、前述したようにSunDiskを認識させるためのドライバであるdipssdp.sysをDドライブのルートにコピーしておくのは、言うまでもない。

以上の準備が整ったところで、Dドライブ上のconfig.sysファイルとautoexec.batファイルに修正を加える。下記に示した設定は、筆者のマシン環境での一例である。ここでは、日本語FEPとして、Poqet PC Classicの

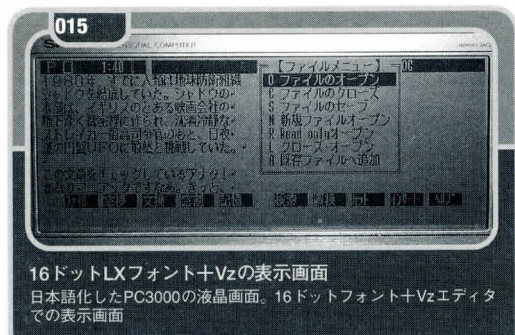
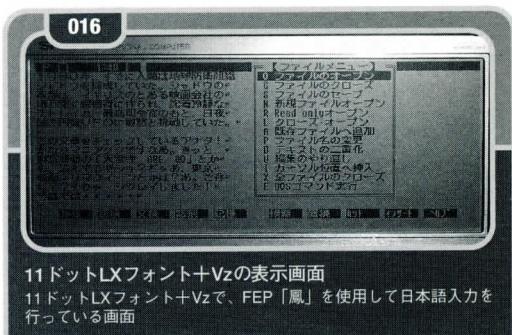
時にも使用した「鳳」を組み込んでいる (015、016、017)。

・ Dドライブ上のconfig.sys ファイル

```
files=20
buffers=20
shell=c:\command.com /e:1024 /p
device=d:\dipssdp.sys
device=b:\doscd\dbcscdumy.sys
device=b:\doscd\fontman.exe -b5 -
fb:\doscd\fontman.ini -d
device=b:\doscd\yadc.exe -bt -bd -v70 -h11
device=b:\doscd\pansi.sys /k
device=b:\bin\otri.sys /db:\otridic /f /i1
/kef920 /kbf820 /ka0020 /k5000f /k30010 /k20009
/k1000d
```

・ Dドライブ上のautoexec.bat ファイル

```
@echo off
prompt $p$g
COMSPEC=C:\COMMAND.COM
path=b:\;b:\bin;b:\doscd;b:\tools;b:\vz;c:\;c:\ld
os;c:\utils;
set term=ansi
SET TMP=B:\TEMP
b:
```



🌀 日本語FEPの導入

PC3000はPoquet PC Classicと同様CPUに8088を使用している関係上、動作できるFEPは限られてしまう。現在のところ、下記FEPが使用可能である。

- ・ 鳳 (フリーソフト)
- ・ EGBridge Ver 3.11 (アシストワードに付属してくるFEP)

但し、EGBridgeを使用する場合には、FEPを起動させるためのドライバである「CGA-PC汎用EG Bridge起動プログラムremapegb.com Ver 1.10」を使用する必要がある。EGBridgeの起動は、デフォルトの設定ではShift + 変換キーに割り当てられているが、PC3000には変換キーに相当するものが無い。従って起動キーを異なったキーに割り振る必要があり、この動作を行うのがremapegp.comなのである。remapegb.comを使用することで、EGBridgeの起動キーをCtrl + (ティルダ) に割り振ることが可能となる。

なお、日本語化+日本語FEPを導入するのが面倒だという方には、英語モードで即日本語テキストが作成できる簡易エディタ、CGA-PC版PED Ver 1.10が使用可能だ。このエディタはPoquet PC Classicの回でもご紹介したようにファイルをマシ本体にコピーするだけで、英語モードで日本語の編集ができるというスグレモノだ (018)。

🌀 ZIPドライブを接続する!

次に、PC3000にIomega社のZIP Drive (100Mバイト) を接続してみる。CPUに8088を使用しているような超古型バームトップパソコンでも、100MバイトのZIPドライブを接続することが可能である。そのためのドライバソフトであるが、商品名をPALM-ZIPと言い、下記から購入することができる。

<http://home.t-online.de/home/stefan.kaechele/>

因みに、このホームページは、ドイツはテニンゲン (Teningen) にオフィスを持つStefan Kaechele氏が開設しているものであり、ATARI Portfolioの回でもご紹介したことがあるものだ。

さて、PALM-ZIPのパッケージであるが、まるで怪しい同人誌のようである。商品構成は3.5インチ2DDのFDが一枚と、PALM-ZIPの取り扱い説明書 (英語版)、ZIPMANというZIPフォーマットソフトの取り扱い説明書 (英文版)



簡易日本語エディタPEDのヘルプ画面
CGA-PC版PED Ver 1.10 RAM フォントバージョンの表示画面

及びソフトウェアライセンス規約を記載したコピーから成り、これらがビニール袋に突っ込まれているのだ。デリカシーのカケラもない、合理的なパッケージングと言えよう。因みに、ドライバソフトを格納したFDのラベルに



PALM-ZIPドライバFD写真
PALM-ZIPドライバFD。記載されているシリアル番号は、ナント0001番!

はライセンス番号が記載されていたのであるが、この番号がナント! 「0001」となっていた。これってやっぱり1番目のユーザということの意味しているのであろうか?? (019)

それではさっそくPC3000にZIPドライブを接続してみよう。まず、PC3000本体とZIPドライブとをケーブルで接続する。この際、PC3000のパラレルポートは、前述したように特殊形状となっているため、専用のパラレルケーブルを使用して接続する。

次に、ZIPドライブを認識させるためのドライバソフトをコピーする。筆者はPC3000のフラッシュメモリーカード (Bドライブ) 上にpalmzipというディレクトリを作成し、下記ファイルをコピーした。

PALMZIP	SYS	2,828	98-08-17	1:10
ZIPMAN	COM	2,046	98-07-20	1:30
ZIPCOPY	COM	2,045	98-02-25	1:00
BI	COM	831	98-05-11	0:20

次に、Dドライブ上のconfig.sysファイルにドライブを登録する。具体的には、下記を追加すればよい。

```
lastdrive=h
device=b:\palmzip\palmzip.sys /p1 /w0
device=b:\palmzip\palmzip.sys /p2 /w0
device=b:\palmzip\palmzip.sys /p3 /w0
```

ここで注意することは、上記のデバイスドライバは

SunDiskを認識させるドライバの後に記載しなくてはならないことである。SunDiskが認識されていないと、ドライバをロードできないからね。

以上の準備が整ったら、マシンをリブートすれば良い。総量100MバイトのZIPメディアは、33Mバイト×3パーティションという形で認識されるはずだ。各パーティションのフォーマットは、専用のフォーマットソフトであるZIPMAN.COMで行えばよい(020、021、022)。

🎮 ゲームマシン PC3000の構築

さて、このPC3000というパームトップ機を何に使うかということであるが、筆者は迷わず「ゲーム機」として使うべきと考える。その理由は、前述したようにPC3000の液晶画面には白黒反転機能があるからだ。CPUの処理速度が遅いため、フライトシミュレータのように負荷がかかるゲームには不向きであるが、バックマンやロードランナー、プリンス・オブ・ペルシャ、上海などといった往年のCGAゲームは、そこそこストレ

ス無くプレイすることが可能である(023、024、025、026)。

パラレルポートにZIPドライブを接続し、ZIPメディアに往年のCGAゲームをゴチャマンと格納しておけば、見やすい液晶画面上でイヤというほどゲームを楽しむことができるというワケだ。

以上、国産謎ば〜機であるPC3000の概要をご紹介した。9年以上も前の製品であるにもかかわらず、ちょっとドライバを組み込めば、フラッシュメモ리카ードも使えるし、ZIPドライブだって使えちゃうのだから大したものである。謎ば〜ゲーム機を構築してレトロなCGAゲームの世界にハマりたいお方は、是非使ってみて欲しい。かなり苦労すると思うが、それなりの満足感を得ることができる(……と思う……たぶん……)。



020
PC3000にZIPドライブを接続
PALM-ZIPドライバを導入し、パラレルポート経由でPC3000にZIPドライブを接続する



023
ゲーム画面#1「SHANGHAI Dragons Eyes」
CGAゲーム「SHANGHAI Dragons Eyes」のプレイ画面



024
ゲーム画面#2「バックマン」
CGAゲーム「バックマン」のプレイ画面



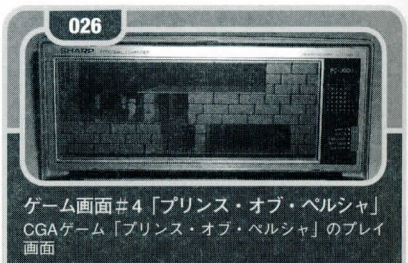
025
ゲーム画面#3「ロードランナー」
CGAゲーム「ロードランナー」のプレイ画面



021
PC3000にZIPドライブを接続
PALM-ZIPドライバを導入し、パラレルポート経由でPC3000にZIPドライブを接続する



022
PALM-ZIPでフォーマットしたドライブにCHKDSKをかけたところ
ZIPMANで作成したドライブにCHKDSKをかけた画面。ちゃんと33454080 bytes total disk spaceと表示されている



026
ゲーム画面#4「プリンス・オブ・ペルシャ」
CGAゲーム「プリンス・オブ・ペルシャ」のプレイ画面